

かいふの大工技術について

キウチ建築
木内繁一

1 かいふの山の立ち木の姿

うまめ榿と榿の違いとは、榿がまっすぐな木の目をしているのに比べ、うまめ榿とは目が入り組んでいて面白い木の目が見える。硬さは似ているが衝撃で壊れないほどの混雑した木の目があるため、建築材料に使う面白さがある。



うまめ榿

榿

建築に使いやすい木として、榿****:土台・柱、桁、梁 色が黒いのが欠点だが、それ以外では申し分のない良い木である。曲がりのあるあての木を使う時は、必ずあえて加工しないようにする。そのままの姿を生かして使うと強度はとてもある形である。その他良材として、栗の木、榎、杉、檜、松、欅、楓などがある。その中でも水に強いとされているのは、栗、榿、榎、檜などがある。

2 山から木を搬出する



葉枯らしにて搬出



線をひく搬出方法



かいふの木の特徵



長尺材をとる技法がある。目が入っているのが多い、赤味より黒味多し、平均 80 年製あり、150 年製の山も現存する



3 化粧丸太を皮付きから選別する方法

「丸太肌の綺麗なものを皮付きから選ぶコツ」

- ①皮の中にある小さな拳の下は、見えない節がある場合がある。皮をよく見る。
- ②若木の時の枝打ちした跡が皮に残っている場合、生節が出ることもある。
- ③元玉よりは二番玉くらいでとる。味、面白みは元玉がある。
- ④水分が皮と身の間にある為、皮をむくのは春材の方がむきやすい。
- ⑤立秋明けの木を選ぶ。すぐに皮をむく必要有り。置くとめくりにくい。

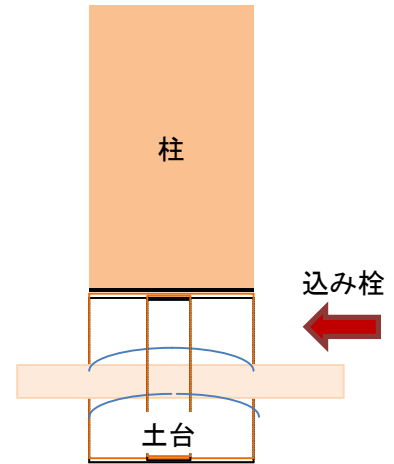


4 伝統的な軸組を作る

①土台と柱の込み栓—まっすぐでは抜けるので工夫している



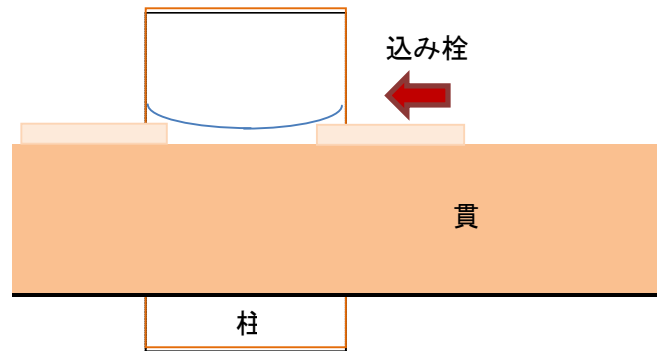
込み栓穴の工夫:柱全体を若干土台に引き付けることにより柱足元が安定する



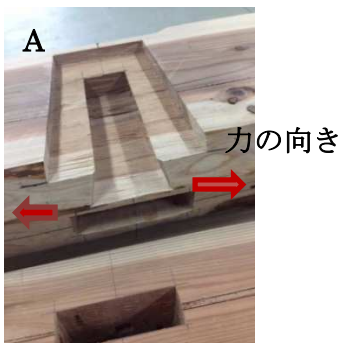
②貫の留め方—込み栓の形が違う



貫穴に工夫:上部を下に湾曲させる事により、よりキツくできる



③梁と梁 柱と梁の接合

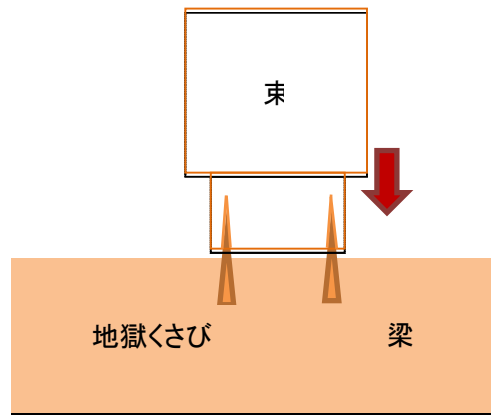


A:蟻欠きの一種であるが、上から下に力をかけるものではなく、落とした力を両サイドに流す仕口



B:柱の頭に楔を打ち、留める方法
横から込み栓を叩き込む事が小屋組になるとしにくいので、叩きやすい頭から叩き入れる方法

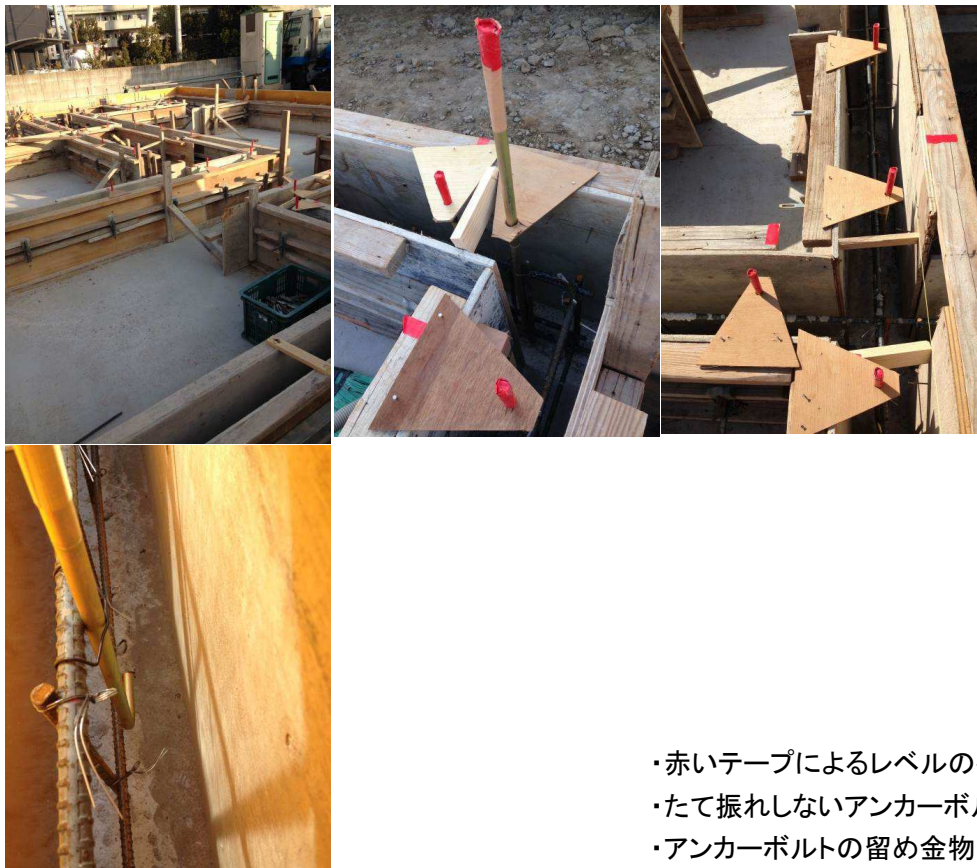
④地獄くさびー束を金物を使わずに梁にとめる方法



束を地獄楔で留める方法であるが、束先を図のように加工して楔を打ち、梁に差し込む。一度入ると抜けないので、施工を慎重にしなければ、梁の交換をしなければならない



※基礎のアンカーボルト及び、N 値金物の取付
→現場にて細かい施工性をあげる為の方法



- ・赤いテープによるレベルの確認
- ・たて振れしないアンカーボルトの入れ
- ・アンカーボルトの留め金物